



www.cosmo-plan.com

「地域と共生する介護・医療建築」 (最近の事例報告)

平成18年4月21日

- ① 帯迫 多機能ホーム
- ② 大明ヶ丘 多機能ホーム
- ③ 榛名荘病院新病棟
- ④ 榛名ケアセンター

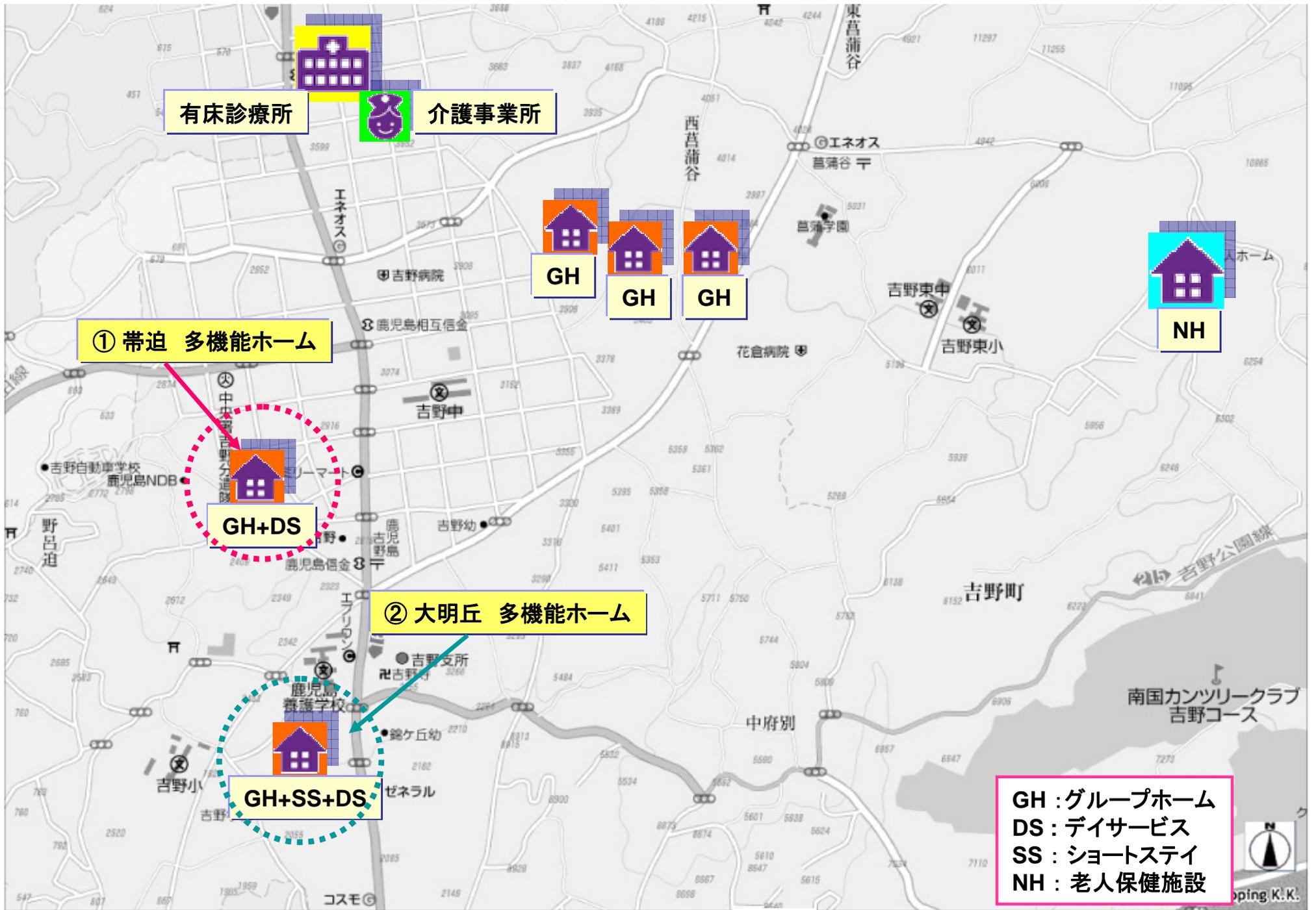
 cosmo plan

コスモプラン(株) 一級建築士事務所

代表取締役 水野直樹

① 帯迫 多機能ホーム

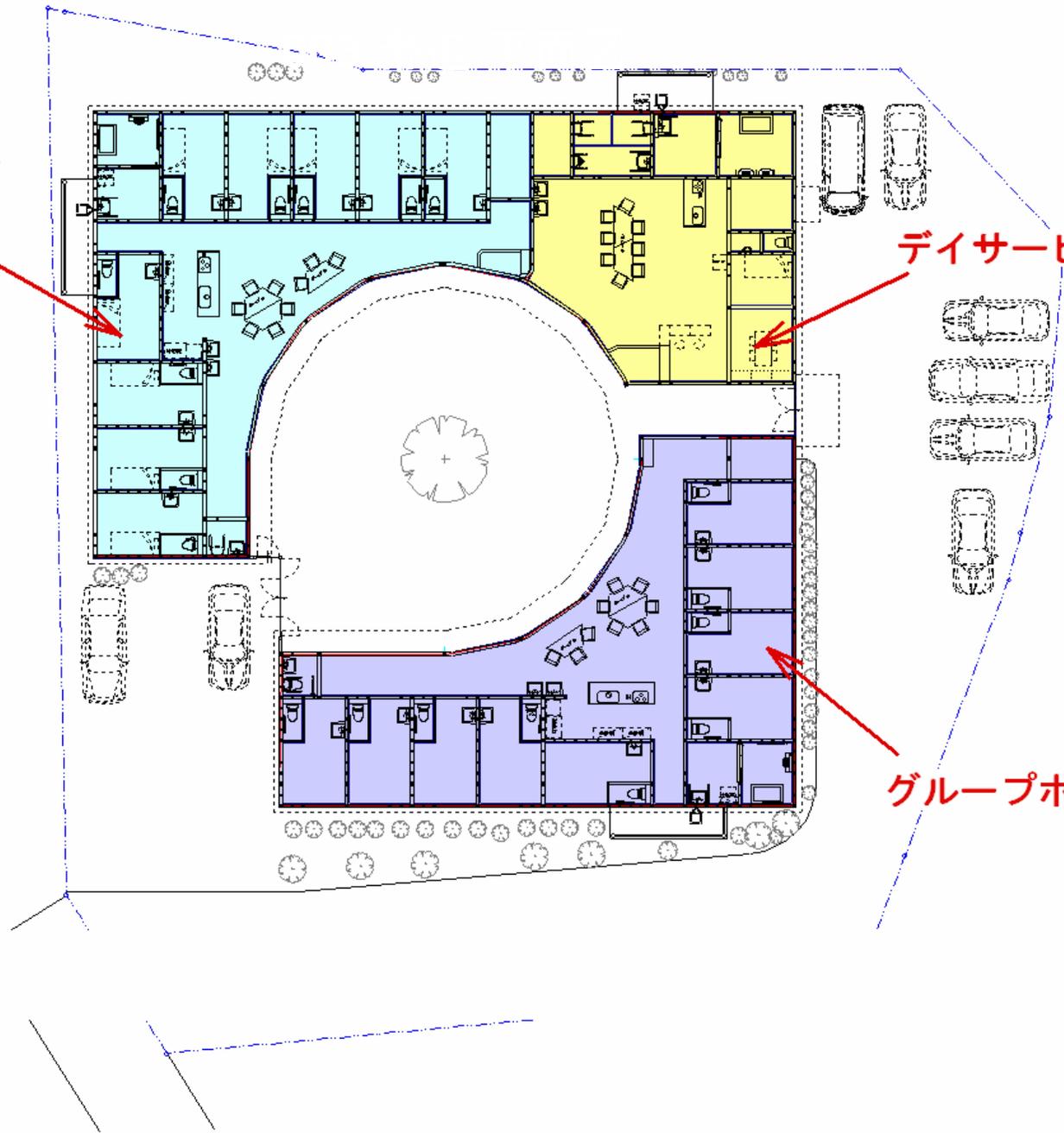
建築場所	鹿児島市吉野町(帯迫)
完成年月	平成18年2月
用途	グループホーム(2U)+認知症デイサービス(10人)
規模・構造	530㎡(160坪)、木造平屋建
事業主体	医療法人
事業形態	一括借り上げ
その他	CP:341pt

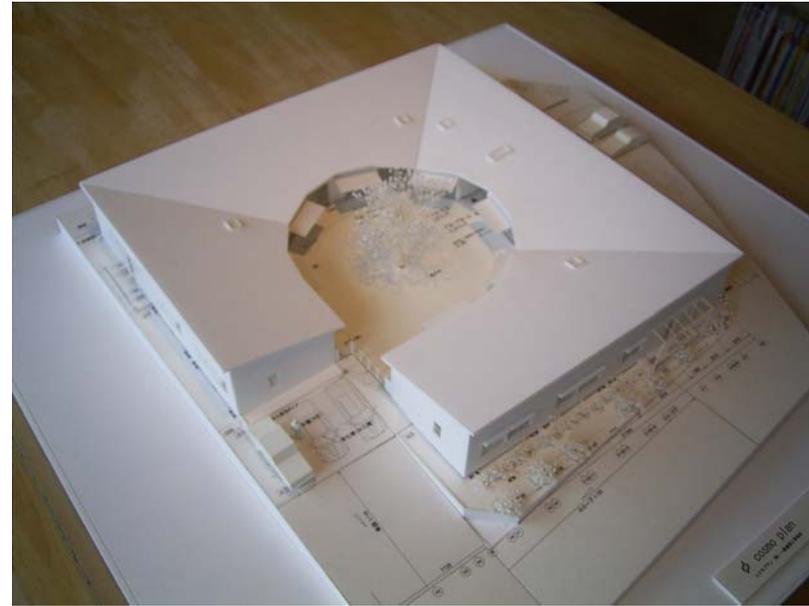


グループホーム

デイサービス

グループホーム







② 大明ヶ丘 多機能ホーム

建築場所	鹿児島市吉野町(大明ヶ丘)
完成年月	平成18年3月
用途	グループホーム(2U)+(小規模多機能)
規模・構造	695m ² (210坪)、木造平屋建
事業主体	医療法人
事業形態	一括借り上げ
その他	CP:352pt



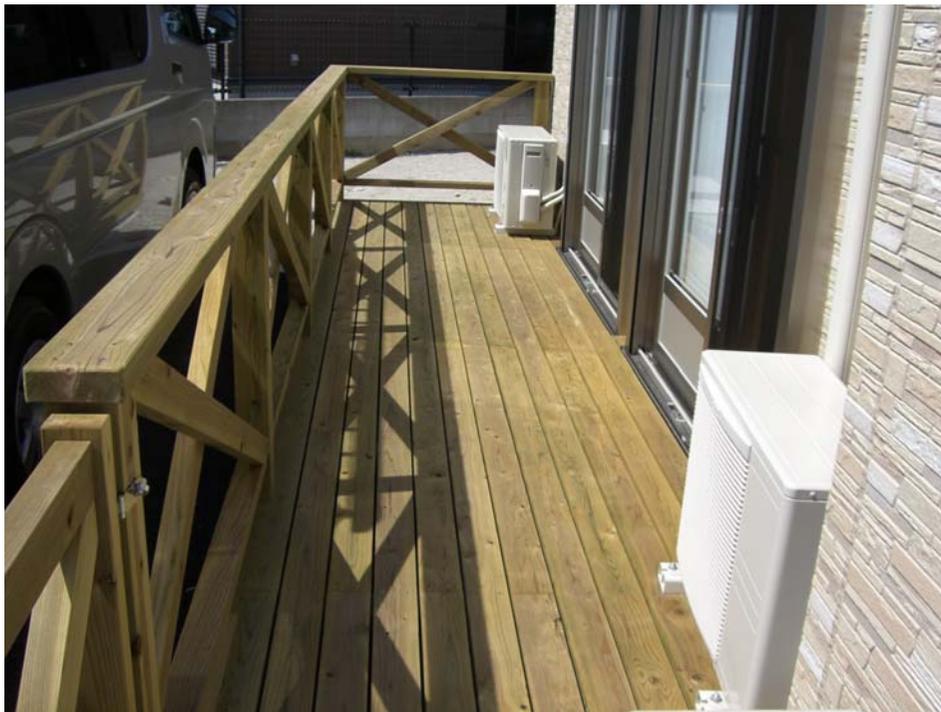






011

② 大明ヶ丘 多機能ホーム





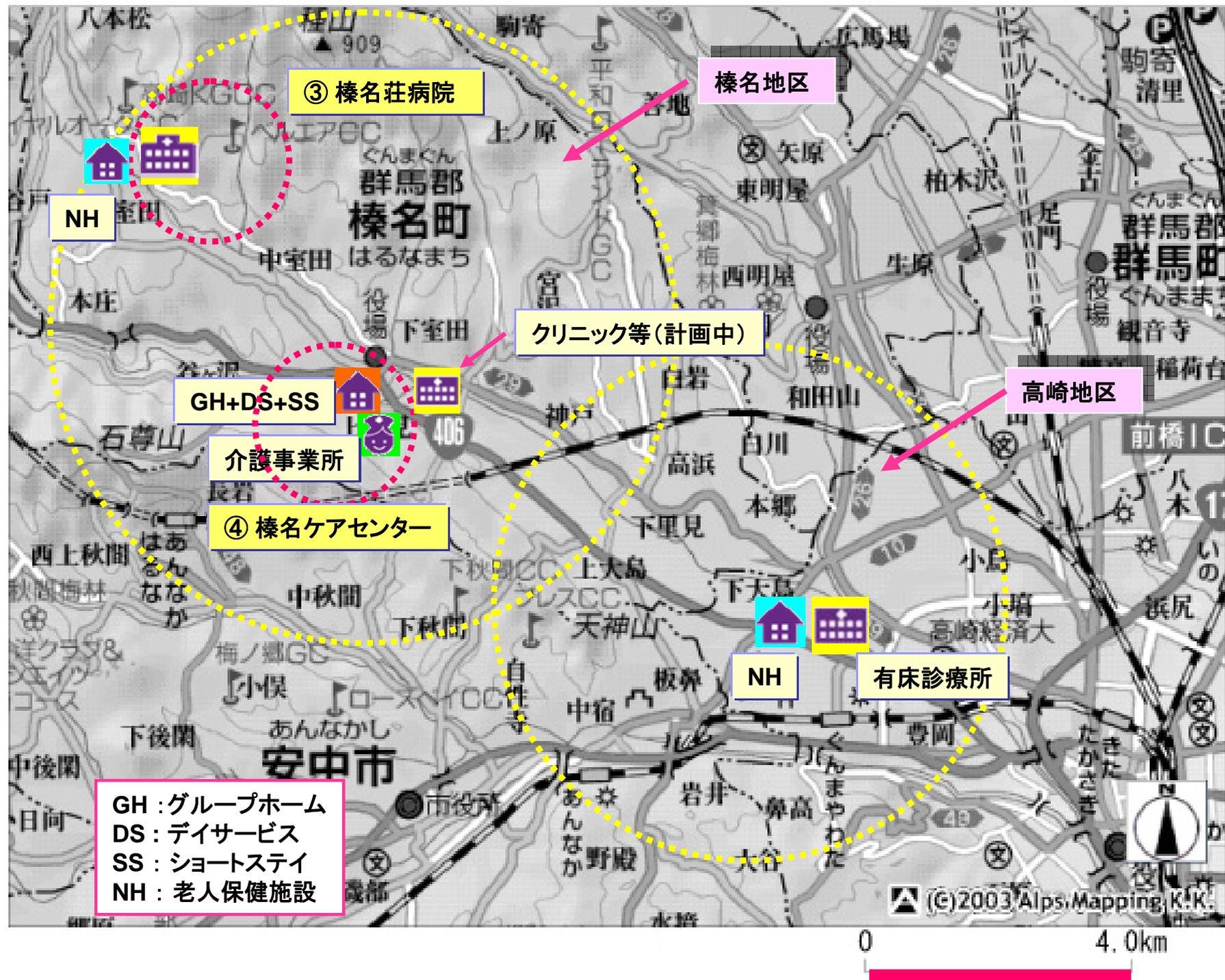
013

② 大明ヶ丘 多機能ホーム

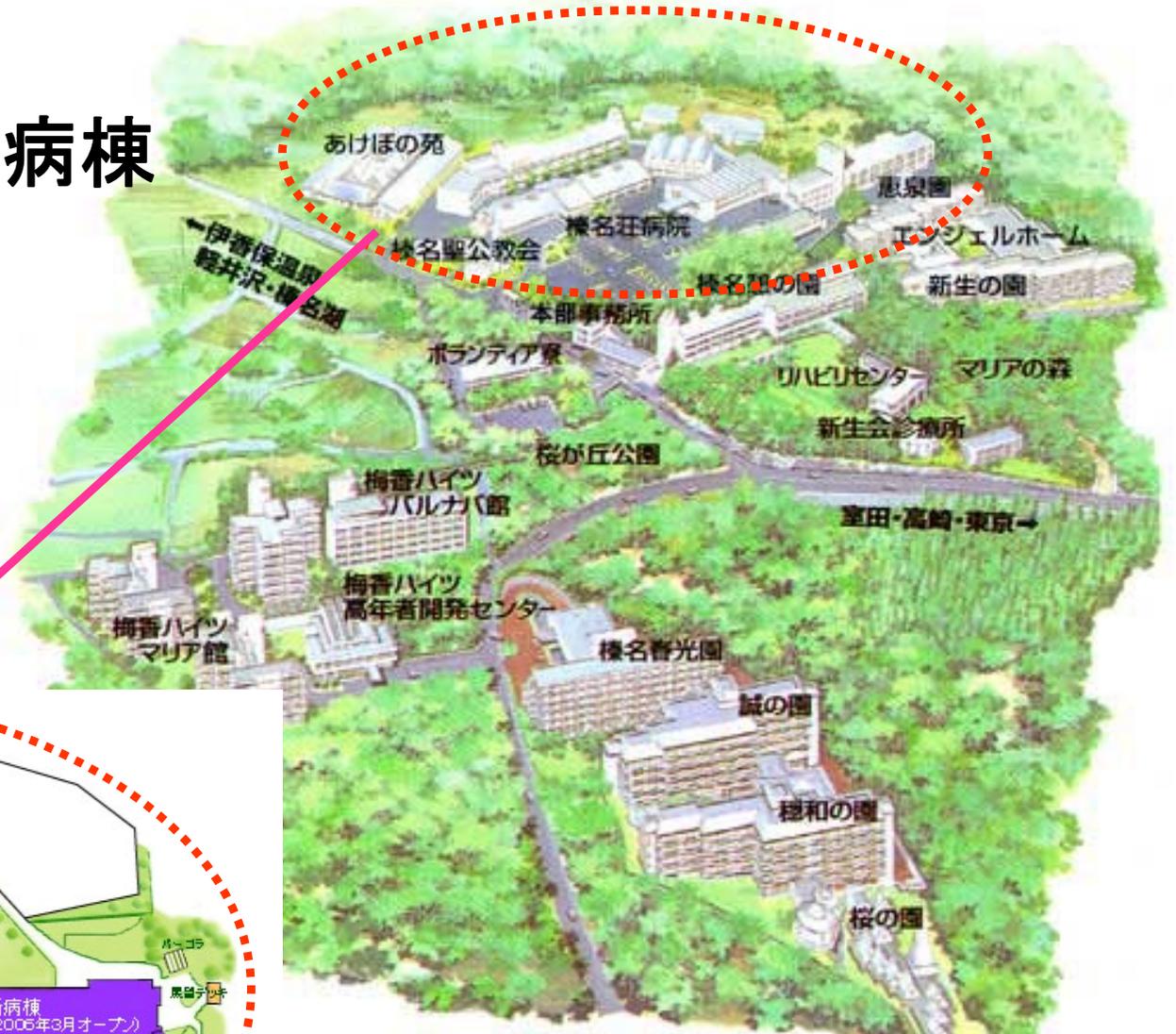


③ 榛名荘病院中央病棟

建築場所	群馬県群馬郡榛名町
完成年月	平成18年4月
用途	病棟(111床)
規模・構造	5,800m ² (1,755坪)、鉄骨造地上6階建
事業主体	財団法人
事業形態	
その他	既存病床の敷地内移転改築



③ 榛名荘病院中央病棟



財団法人榛名荘の沿革

- 昭和13年 自然療法普及を提唱する有志たちが浄財を集め、結核療養所「榛名荘」を設立。12床の自然療法病棟「新生寮」の保養事業が開始される。
- 昭和22年 病床数30床の「榛名荘病院」が認可される
- 昭和25年 「財団法人榛名荘」が認可される
- 昭和26年 105床
- 昭和27年 155床
- 昭和33年 結核患者減少という時代背景から、老人福祉事業開始。「社会福祉法人 新生会」設立が認可される。生活保護法による養老施設「恵泉園」開設。
- 昭和34年 20周年を迎え、一般病棟を開設。200床の一般病院へと成長。
- 昭和37年 日本の第一号軽費老人ホーム「榛名春光園」開園。
- 昭和41年 リハビリテーション施設開設（“脳卒中即リハビリテーション”をいち早く導入）
- 昭和63年 老人保健施設「あけぼの」開設
- 平成4年 病床不足から226床から231床へ増床
住民の老齡化に対し在宅中心の病院へ移行、訪問看護開始。
- 平成6年 訪問看護ステーション事業開始
- 平成9年 「はるな脳外科」（付属診療所）、「あけぼの苑高崎」、「訪問看護ステーションあけぼの」、「高崎市在宅介護支援センター八幡」開所。
- 平成10年 回復期リハビリテーション病棟を開始し、慢性期病棟の専門化を計る。
- 平成14年 「群馬脊椎脊髄病センター」を開設し（「はるな脳外科」付属センター）、整形外科病棟の専門化を計る。

財団法人榛名荘の医療体制

- 榛名荘病院
- 総合リハビリテーション
- 健康管理センター
- 介護老人保健施設「あけぼの苑」
- 榛名荘病院訪問看護ステーション

- はるな脳外科
- 介護老人保健施設「あけぼの苑高崎」
- 訪問看護ステーションあけぼの
- 在宅介護支援センター八幡



- 群馬脊椎脊髄センター

今後の事業形態

新病棟敷地内移転改築(今回)

【 現在の提供体制 】

財団法人 榛名荘

榛名地区

高崎地区

榛名厚生会

介護老人保健施設
「あけぼの苑」
一般50床 痴呆50床
通所リハビリテーショ
ン 40名

訪問看護ステーショ
ン

榛名荘病院(231床)

急性期病棟(整形外科) 35床

急性期病棟(外科他) 35床

急性期病棟(内科) 41床

回復期リハビリテーション病棟 60床

医療療養病床 17床

介護療養病床 43床

外来部門(訪問診療)

健康管理課(健診部門)

はるな脳外
(19床)

群馬脊椎脊髄病セン
ター

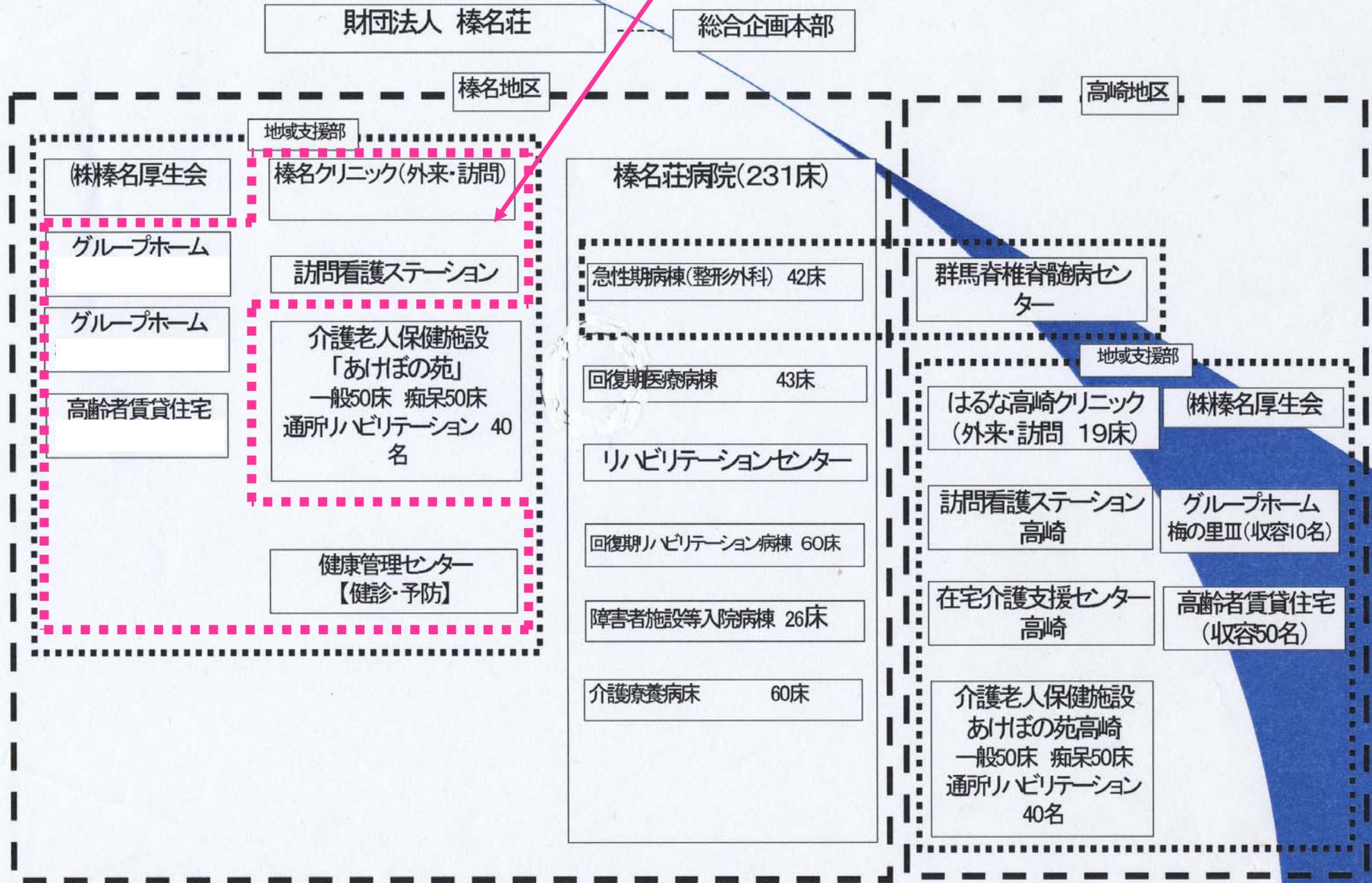
介護老人保健施設
あけぼの苑高崎
一般50床 痴呆30床
通所リハビリテーション40
名

訪問看護ステーショ
ン
高崎

在宅介護支援センター
高崎

【 将来の提供体制 】

(仮称) 榛名ケアセンター





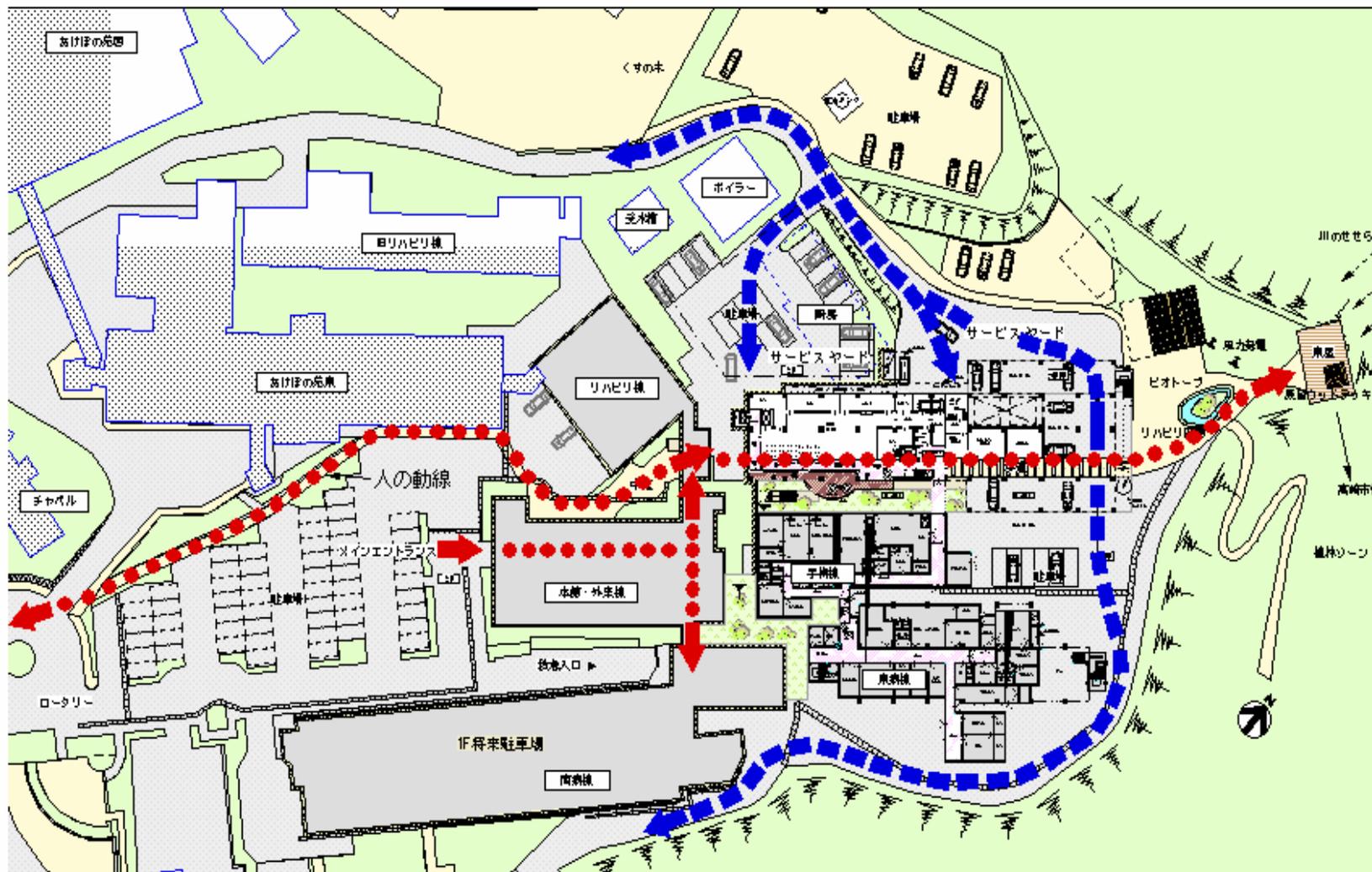




高崎分院(脊椎脊髄センター)

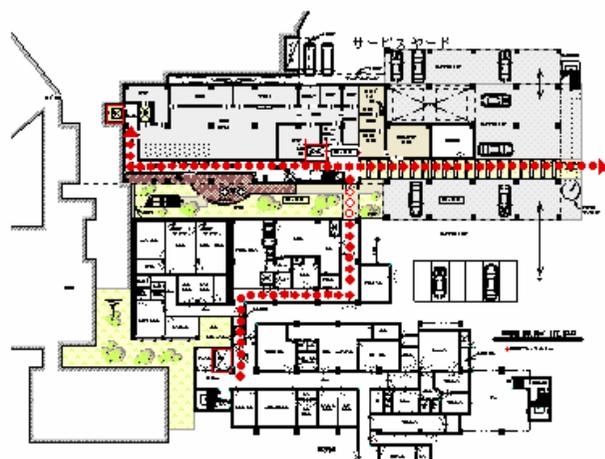
病院入り口から植林ゾーンまでの延長約250mの敷地内緑道を中心とした
利用者・家族・スタッフ、さらに地域住民や近隣幼稚園児などが、
この緑の動線を中心として集える人々の道をつなげる。

北側のサービスヤード及び駐車場を整備し、人の主動線と分離して、
サービスの向上を図る。



③ 榛名荘病院中央病棟

建物動線(水平動線)

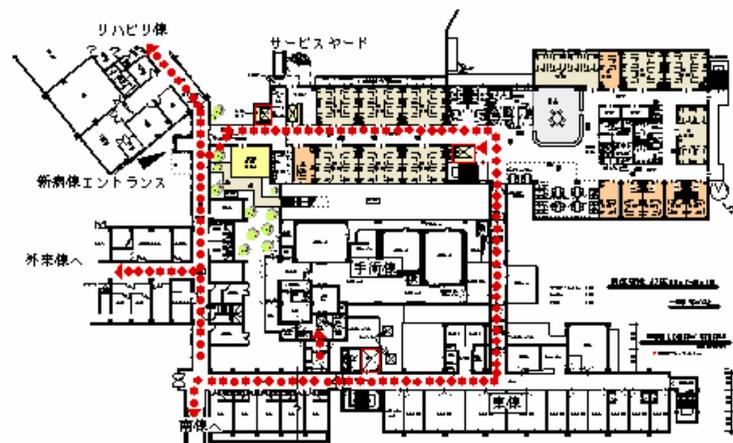


(グラウンドレベル)

メイン厨房のサービスヤード等を整備。

1階レベルからグラウンドレベルへ下がる動線を確保。

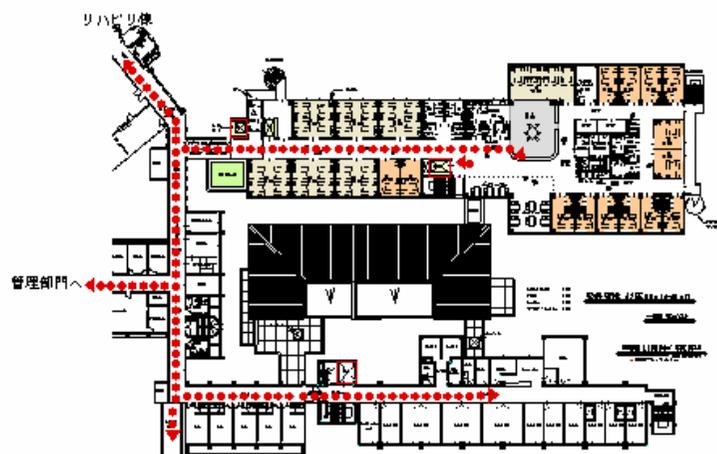
また検査室等への動線を確保する。



(1階レベル)

管理棟・手術棟・各病棟・リハビリ棟へのそれぞれの

動線を意識し、ループ状動線を構築する。

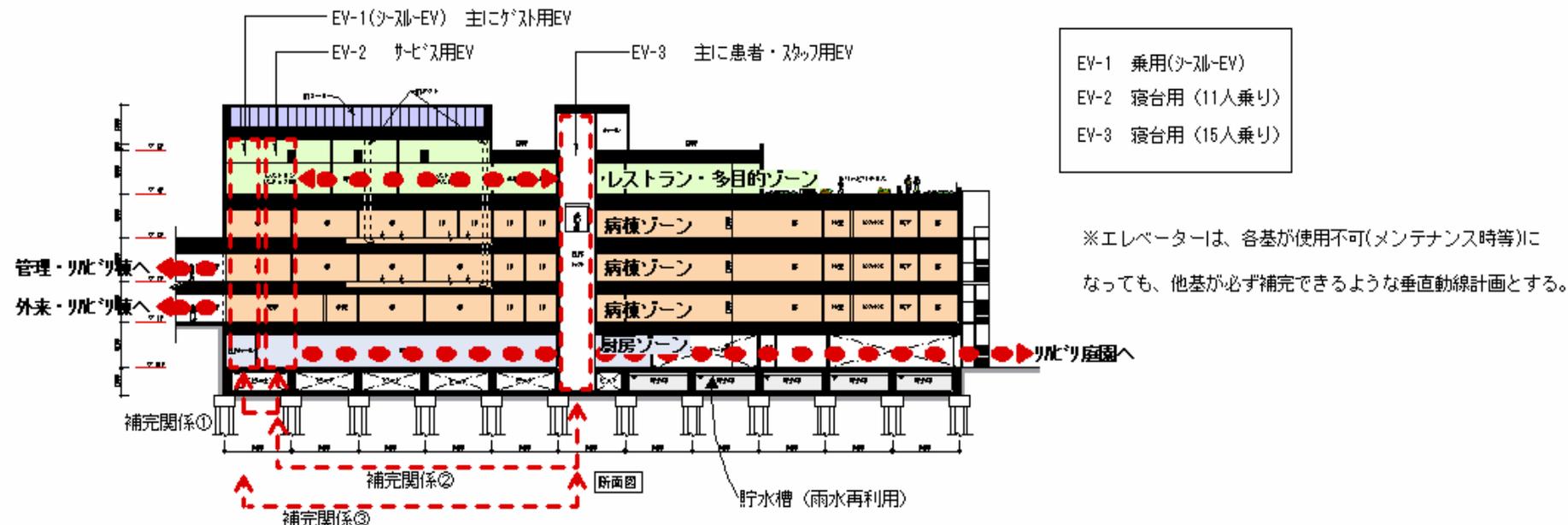


(2階レベル)

管理部門の動線をつなげる。

また、リハビリ棟への移動を容易にする。

建物動線(垂直動線)



エレベーター

・エレベーターの選定については、用途、スペース、コストを考慮し、下記の内容とした。

・ELV-1(乗用13人乗り)

- ・既存施設から見える位置に、シーソーEVを配し、人々に視覚的に垂直動線をアピールする。
- さらに上階にあるアメニティゾーンも合わせてアピールする。

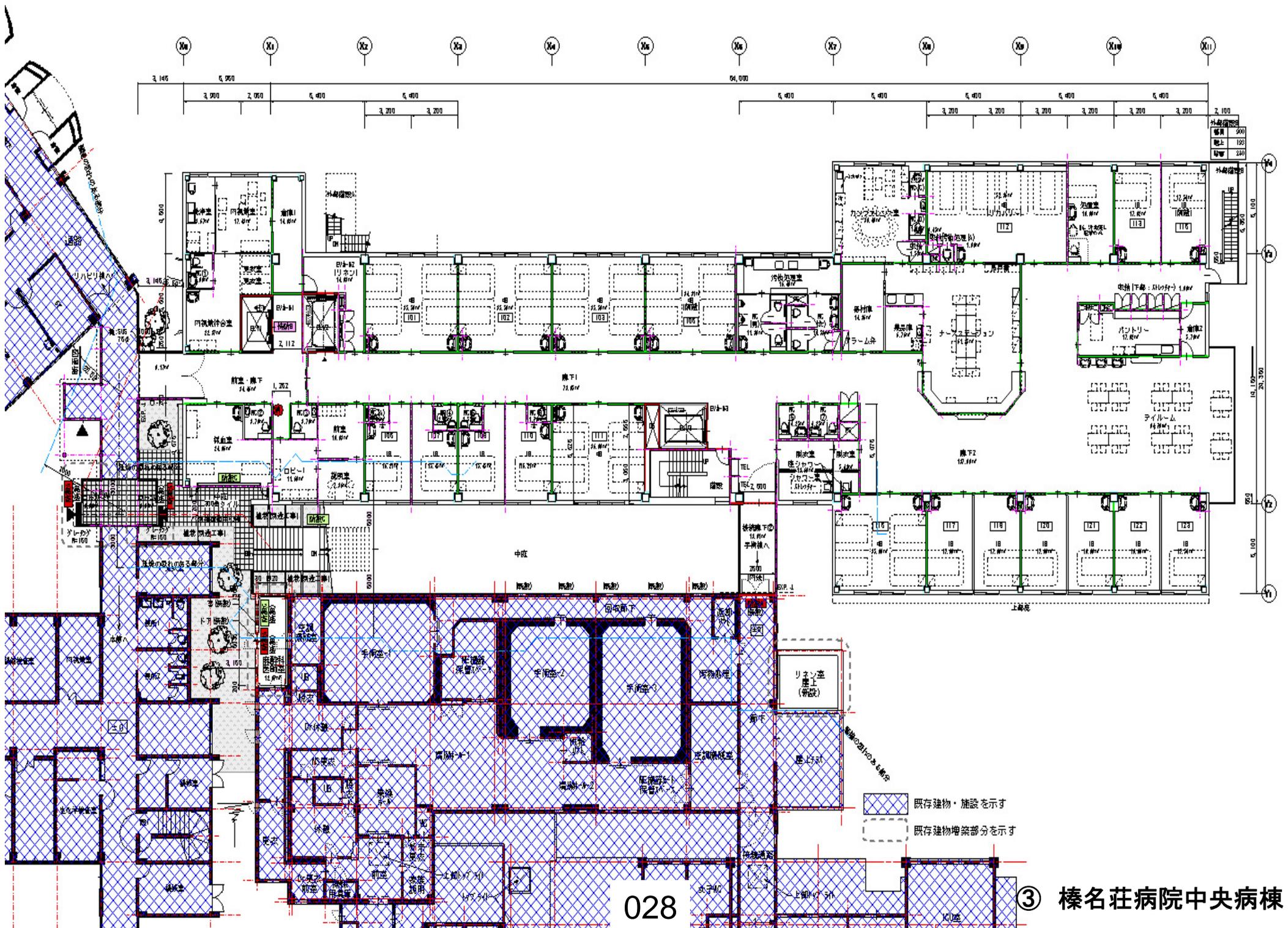
・ELV-3(寝台用15人乗り 1,000kg) 主に入院患者用

- ・手術室に最も近い位置に配置する。ストレッチャーや車椅子用として一般的である。

・ELV-2(寝台用11人乗り 750kg) 主にサービス用

- ・主に最下部厨房及びリネン用として機能する。
- スペースとコストをなるべく削減するために寝台用11人乗(750kg)を採用する。
- 用途としては、各病棟に配食する温冷車が入る仕様で、場合によっては当然ストレッチャーも乗降可能である。寝台用15人乗りに比べて15%スペースを縮小でき、コストでは13%程度安価となる。

※ELVの乗降については、病棟内の感染予防の観点から、必要箇所にドアの開閉にセキュリティーを講ずる。(平面図に表示)

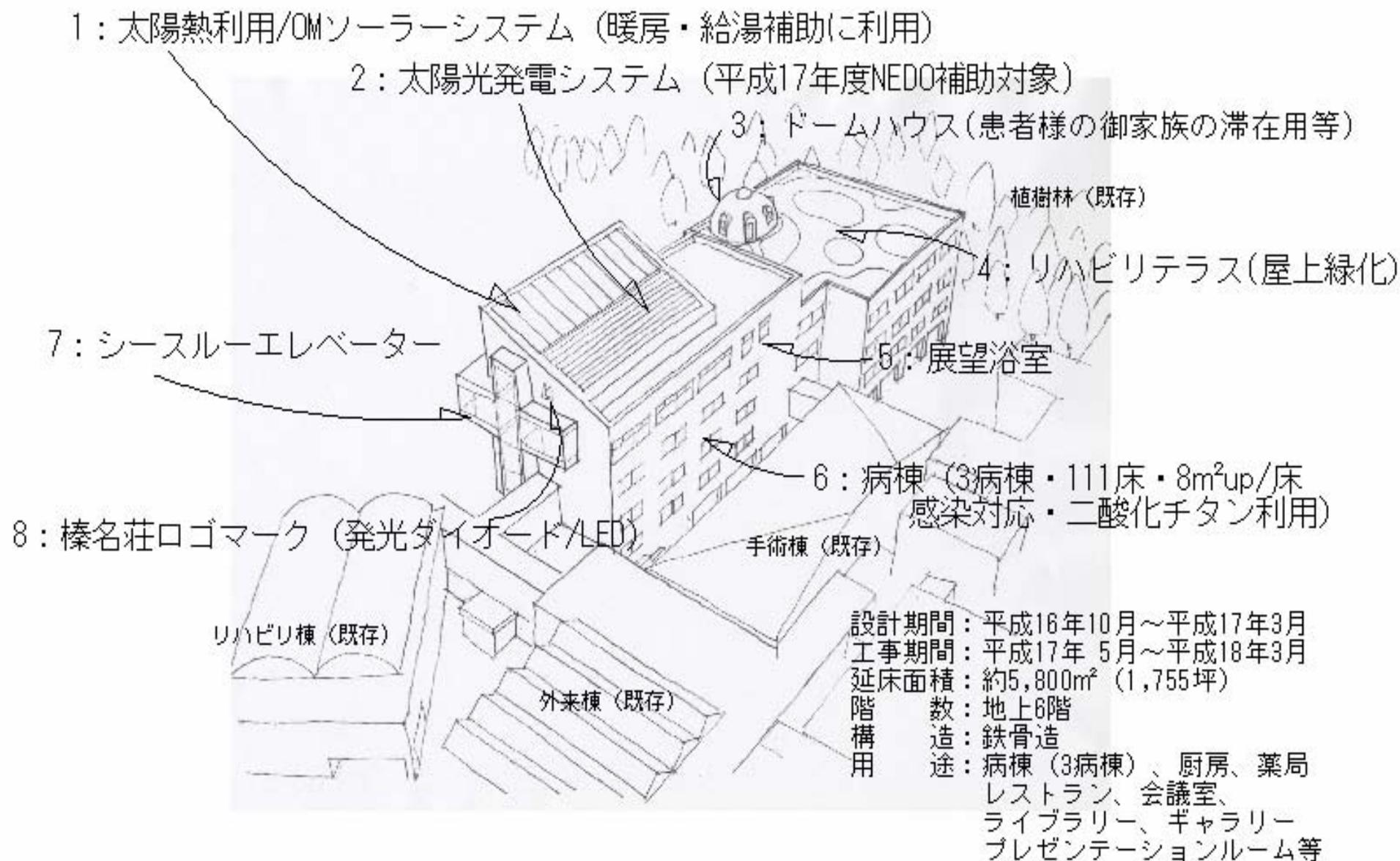


028

③ 榛名荘病院中央病棟

榛名荘病院 中央病棟新築工事 建築概要

平成18年3月31日



将来構想(マスタープラン)

今後のマスタープランを主に配置計画にて提案する。もちろん医療行政が今後急速に変化することにより、法人の敏速な対応の必要性は言うまでもない。間近な問題としては、医療・介護保険等の社会保障費の圧縮に伴い介護予防又は健康管理等さらにアンチエイジングやウェルエイジングの指向性が高まるものと思われる。

榛名荘病院においては、「老後の保健及び福祉のための総合的施設の整備の促進に関する法律」等に基づき、有酸素運動等のリハビリセンターや企業健診センター等の再構築も重要なテーマになるだろう。介護予防としては「筋力向上」「栄養改善」「閉じこもり予防」及び「口腔ケア」等のメニューを実行し、それらの「効果測定」を強化する必要がある。また、嚥下療法等「食べる事のユニバーサルデザイン」の普及も求められるテーマであろう。さらに介護の分野においても術後と家庭のいわゆる「中間施設」の設置は平均在院日数の削減はもとより、利用者や家族を主体に考える上では必要なものと言えるだろう。

また、医療サービスにおける周辺地域への貢献ということから、総合的病院としての存続も地域医療として求められるだろう。さらに在宅や介護への取組みも、今後の社会状況からも必要なことであろう。



PHASE-1(2006)



PHASE-2(2010)



PHASE-3(2015)

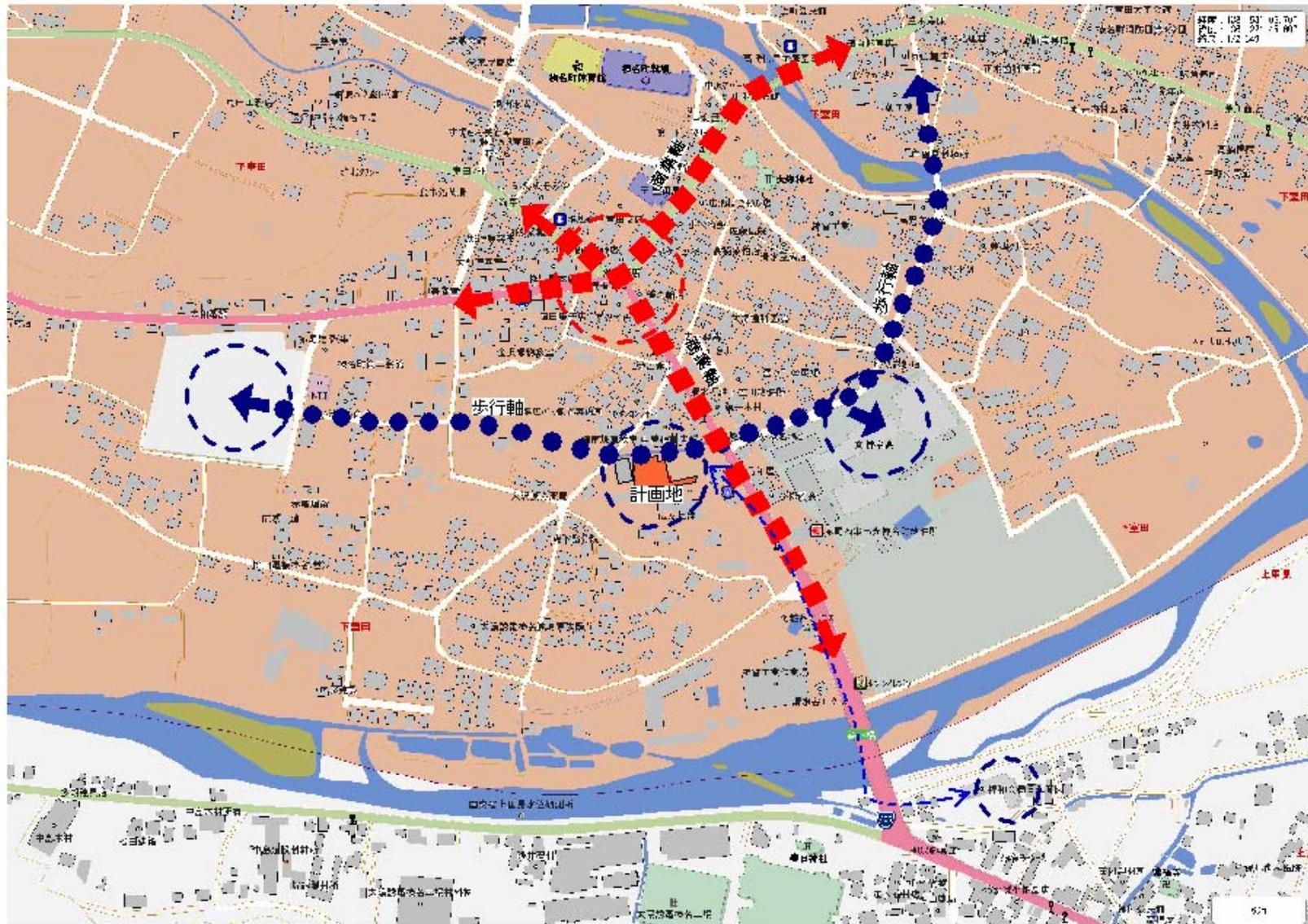


PHASE-4(2020)

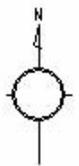
④ 榛名ケアセンター

建築場所	群馬県群馬郡榛名町
完成年月	平成18年9月(予定)
用途	グループホーム(1U)+デイサービス(15人)+ショート(5室)+ 高齢者賃貸住宅(8室)+介護事業所+レストラン他
規模・構造	約1,000m ² (303坪)、鉄骨2階建
事業主体	MS法人
事業形態	所有
その他	用途変更(コンバージョン)
	CP:325pt~380pt



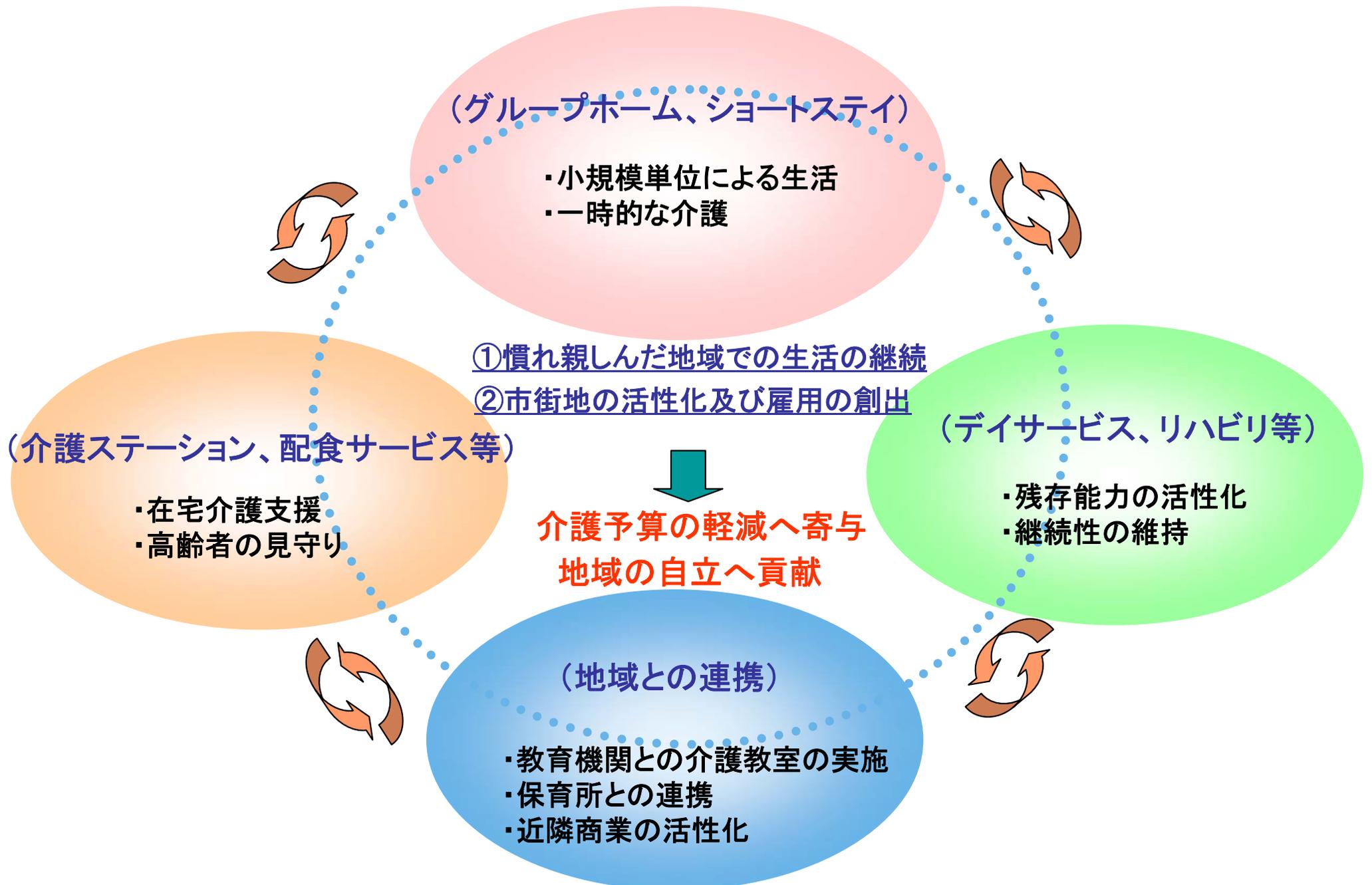


商業軸と歩行軸





(仮称) 榛名ケアセンター計画の位置づけ



(仮称)榛名ケアセンター計画

本計画は榛名町の中心市街地に現存した店舗を介護を中心とした多機能施設にコンバージョン（建物の用途変更）をすることで、**介護予防・地域福祉及び市街地活性化**に寄与することを目的とする。

他の多くの地方都市において近年問題になっている中心市街地の衰退が榛名町にも見られる。中心市街地の商業活動は自動車依存社会の浸透によってバイパス沿いの大規模店舗に顧客を奪われ、スプロール現象が見られる。旧市街地においては駐車場の確保の問題、経営者の後継問題、消費者ニーズの変化への対応の不備等が考えられる。

最近では、大規模店舗自身も存続の問題が発生し退店する現象も起きている。

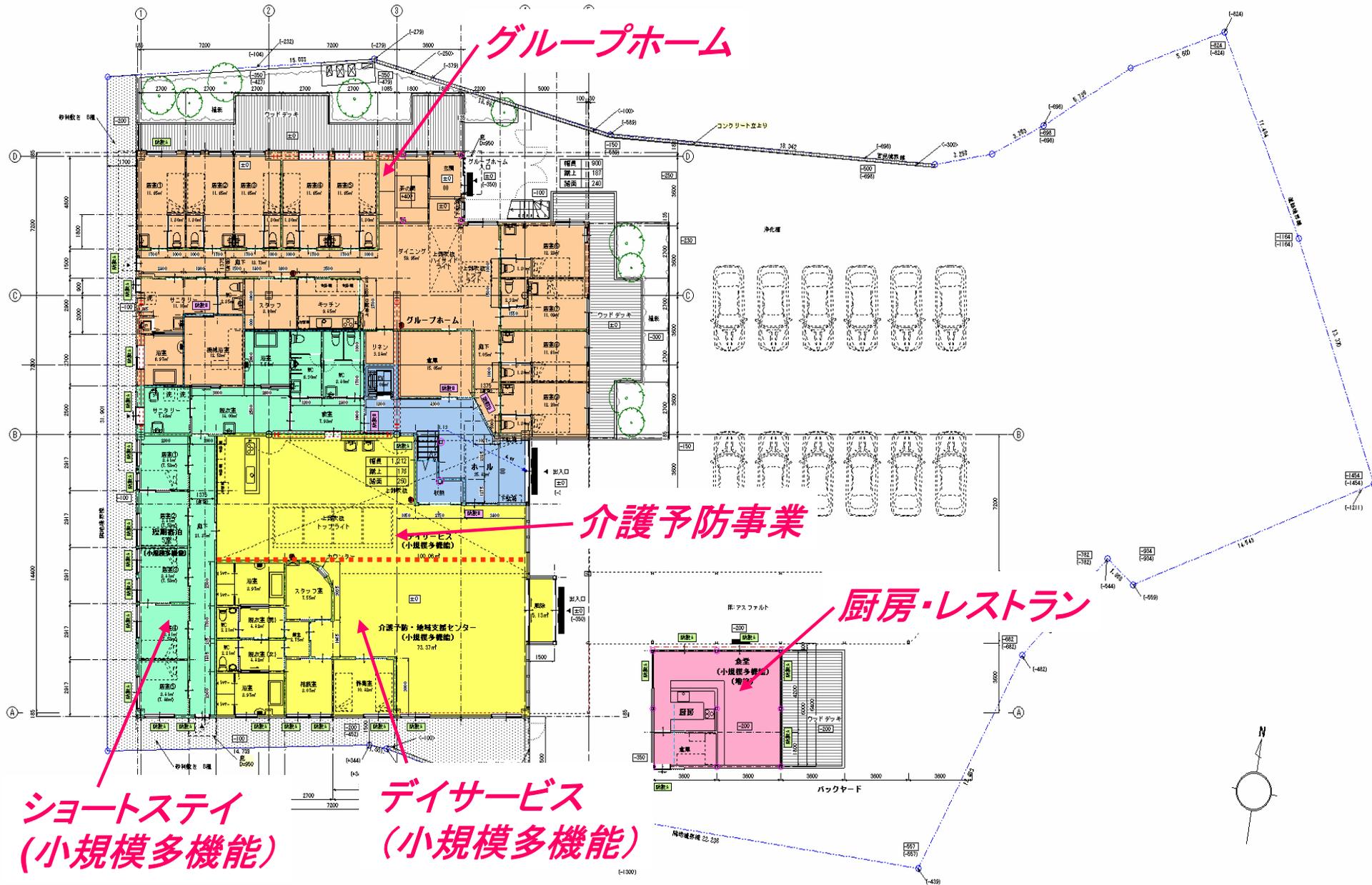
本計画は、地域で既に医療・介護活動を長年に渡って行っている（財）榛名荘が中心となって中心市街地に立地していた店舗を再活用する。建物は解体せずに再利用することで環境への負荷を軽減する。

新しい事業として

- ①入所施設として **グループホーム 1ユニット、ショートステイ 5室。**
 - ②通所施設として **、デイサービスセンター・リハビリセンター等。**
 - ③サービス利用として、**介護ステーション・配食センター等。**
 - ④地域との連携として、**介護教室・保育園との連携・近隣商業の活性化。**
- の大きく4種類の機能を持つ**中規模多機能施設**を創設・運営を行う。

当該施設で展開される複数の事業を中心にして、少しずつ人々が集い始める。計画地の約300m西側にある町所有の大規模な空地进行、当該施設の利用者及び地域住民が積極的に利用する。高齢者の園芸療法を兼ねて菜園や花畑に利用したり、高齢者の屋外活動の拠点とし地域住民と共に活用する。このことは多様な地域交流の場になる。約100m東側にある榛名高校の生徒は受験勉強も勿論大切な本分ではあるが、本事業を身近に見ることで自分の生まれ育った地域に更なる愛着が湧き、地域の将来や家族について更に深く考える良い機会になる。また、近隣にある保育園や地域の小・中学校との連携を通して世代間ノーマライゼーションも推進する。これらのことは、中心市街地に立地する利点を生かして実践される。

更に、ここで生産された物は店舗で販売も可能で、高齢者の社会参加の継続および活躍の場の創出により「**高齢者の社会貢献**」を促す。また主婦層が関連することで、日常生活用品・食料品等の需要が生まれる。これらの取り組みが周辺の商店街にも波及し序々に**地域経済活動が活性化**すると想定される。



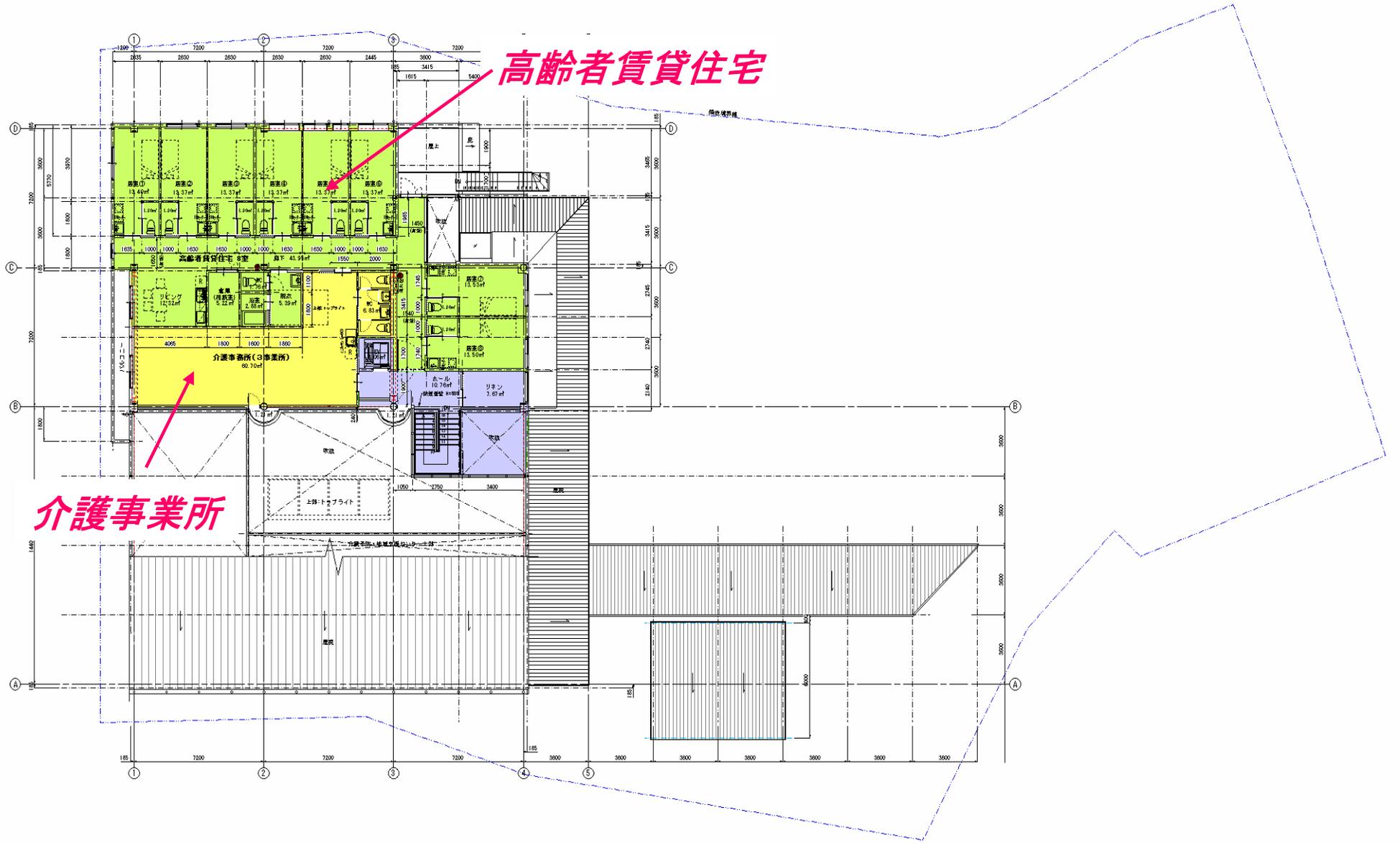
**ショートステイ
(小規模多機能)**

**デイサービス
(小規模多機能)**

介護予防事業

厨房・レストラン

グループホーム





ありがとうございました

www.cosmo-plan.com